

※現行計画の評価等を踏まえ検討した都市づくりの全体構想を受け、地区別に取り組む方針等を検討するために地域にお住まいの方との意見交換を開催

1 稲羽地区

日時	令和7年7月15日（火）19時～
場所	稲羽コミュニティセンター 会議室
参加者数	16名

生活利便性：地域によって買い物環境に差があり、高齢者の買い物に困難となっている。スーパーや道の駅のように地域全体を支える商業施設の立地の検討が必要。

既存集落の維持：市街化調整区域の規制により、子世代が地域内に住宅を建てられず人口流出が進行している。線引きの見直しや、下水道整備済み地域の活用などを検討が必要。

災害リスク：新境川の築堤構造や水流の悪化により浸水リスクが高まっている。境川の放水改善や堤防改修などの対策が必要。

公園・緑地：利用率向上のための仕掛けや機能の見直し、公共施設としての活用の検討が必要。（猛暑の影響もあり）

公共交通：改正後、ふれあいバスの便数減少や長時間待ちにより不便になった。市役所直通やチョイソコの拡充が必要。

道路・インフラ：狭隘道路が多く、防災や通学の安全性が課題。主要道路の整備推進や開発が進まない三井町の対応が必要。



2 那加地区

日時	令和7年7月18日（金）19時～
場所	那加福祉センター 集会室
参加者数	8名

浸水・治水：境川の排水路が直角に合流しており流れにくい構造である。今後は合流部の見直しなど、抜本的な治水対策が必要。

インフラ老朽化：上水道管は昭和期に整備されたものが多く老朽化が進んでいる。人口減少が進む地域では維持が困難となるため、水道など生活基盤施設の集約化と効率的な運用が必要。

公共施設：新総合体育館の整備にあわせ、既存体育館の利活用方針を検討すべきである。費用を抑えた対応が必要。

土地利用：三井町の市街化区域編入地では整備が進んでおらず、今後の見通しを示す必要がある。岐阜各務原 IC 周辺については、物流施設を含む多様な業種での開発を事業者と協議中。

企業誘致：地価が高く他自治体との競争もある中で、工業用地の確保が喫緊の課題。

安全対策：空き巣や車上荒らしが増加しており、防犯対策の強化が必要。



3 鵜沼地区

日時	令和7年7月23日（水）19時～
場所	鵜沼福祉センター 集会室
参加者数	23名

鵜沼駅周辺：高さ制限が厳しくマンション建設が困難であり、人口増加を妨げている。景観の規制により、地域発展の阻害要因となっており、柔軟な運用が必要。バイパス全面供用後は通過地帯化や駐車場増加の懸念。

交通・道路整備：三ツ池交差点周辺の渋滞解消をはじめ、坂祝バイパスと新愛岐大橋の接続、南北幹線道路の整備などが課題。新総合体育館周辺や芋ヶ瀬街道沿い、木曾川沿い県道の狭さなども改善が必要。

城山周辺の整備：展望台やレストラン、宿泊施設の整備などにより、犬山市との観光交流拠点として有効活用が必要。

公共交通：チョイソコエリアが分断されており、地域内移動が不便。南北移動を含め、一体的に利用できる体制への改善が必要。

市街化調整区域：道路狭隘や交通増加により農作業に影響。分家制度の厳格さにより若い世代の定住が妨げられており、見直しが必要。

河川管理：河川ごとに管理主体が分かれており煩雑であるため、市による一括管理されるとよい。



4 蘇原地区

日時	令和7年7月25日（金）19時～
場所	蘇原コミュニティセンター 集会室
参加者数	16名

公園整備：公園が極めて少なく、街区単位での整備が必要。都市計画公園も借地が多いため、所有権の確保が必要。また、市は公園整備に力を入れているが、成果の PR が不足。

道路整備：堤防道路や境川沿いの道路が冠水で通行不能となるため、高架化など安全性を高める改善が必要。

産業振興：テクノプラザへのアクセス向上のためスマート IC の新設を希望。調整区域の工業団地化や編入による雇用拡大が必要。

歴史文化の保全：過去に中世の城跡や古墳が失われた経緯を踏まえ、今後は歴史遺産を守る視点で土地利用を進めるべき。

環境保全：焼却場の老朽化に伴う建替えは財政負担が大きい。生ごみ分別や資源化など、ごみ削減と環境負荷低減の取り組みが必要。

公共交通：名鉄各務原線の無人駅が進み、公共交通の活気が低下している。自動車依存社会を踏まえた都市づくりが必要。

沿道開発：マックスバリュ北側の調整区域の土地利用方針を明確化すべき。住居系を避け、商業系利用の検討が必要。



5 川島地区

日時	令和7年7月30日（水）19時～
場所	川島ライフデザインセンター 集会室
参加者数	5名

市街化調整区域：市内では東西に便利施設が集中しており、土地利用の偏りがある。河川環境楽園周辺や笠田地区など、市街化調整区域の規制緩和による活用が必要。未利用地を子どもから高齢者まで楽しめる交流の場にすべき。

地域の活性化：川島 PA へのスマート IC 設置が長年要望されているが実現していない。橋の未完成や道路の狭さが人流を妨げていることも課題。アクア・トトぎふの積極活用や自然環境・コミュニティの魅力を発信し、交流や移住促進につなげるべき。

道路整備：地区内の道路・歩道は狭く、安全対策として拡幅が必要。生活道路では車両すれ違い困難や消防車進入不可の箇所があり、緊急時対応の観点からも改善が必要。

公共交通：江南・一宮方面へのバスは比較的便利だが、市内へのアクセスが不便。改正による市役所へのアクセスが悪化。

災害対策：宅地化により雨水浸透量が減少し、排水能力不足が懸念。調整池や公園整備など治水対策の強化が必要。



※現行計画の評価等を踏まえ検討した都市づくりの全体構想を受け、地区別に取り組む方針等を検討するために地域にお住まいの方との意見交換を開催

1 蘇原地区

日時	令和7年9月16日(火) 19時～
場所	蘇原コミュニティセンター 集会室
参加者数	12名

道路整備：側道の草による歩行者や自転車の通行障害が生じており、既存道路の環境改善と自転車専用道の整備による安全確保が自転車通行必要。新境川で分断された道路接続や主要幹線道路の整備を進め、通学路を含めた交通安全の向上が必要。

桜並木：河川沿いの桜並木では自転車走行が困難であり、観光資源としても活用できるような走行環境の改善が必要。老朽化した桜の更新植樹を進めるとともに、桜回廊計画を木曽川沿いのサイクリングロードと一体的に整備することが必要。

産業振興：航空機産業に限らず多様な企業誘致を進め、地域経済を支える産業基盤の強化が必要。特定地区に限定せず土地利用の工業用地方向性を示し、工業団地拡張や農用地調整を含めた計画的な産業振興が必要。

公共交通：名古屋から犬山経由の直通運行がなくなり利便性が低下しているため、直通復活を含めた公共交通体系の見直しが必要。



2 稲羽地区

日時	令和7年9月18日(金) 19時～
場所	稲羽コミュニティセンター 会議室
参加者数	18名

地域生活拠点：稲羽地区に地域生活拠点が設定されておらず、過疎化防止と生活利便性確保の観点から拠点整備が必要。市街化調整区域における既存集落の維持活性化も併せた対応が必要。

市街化調整区域：耕作放棄地の増加や農業担い手不足により、都市計画法第34条11項の対象拡大など宅地化の余地を広げる検討が必要。浸水リスクや基盤整備の課題を踏まえつつ、既存集落の将来像を明確化することが必要。

街路樹：新境川沿いの雑木繁茂や老木化した桜の衰弱に対応し、景観・安全性向上のための剪定・更新が必要。落葉による維持管理負担を軽減しつつ、景観性を維持できる樹種選定が必要。

下水道整備：一部地域で整備が未了となっており、私設引込の負担軽減と接続率向上のため下水道整備の推進が必要。

狭い道路対策：通学路における狭い道路や速度規制未整備の危険に対し、拡幅やゾーン30プラス導入など安全対策の実施が必要。



3 鵜沼地区

日時	令和7年9月25日(水) 19時～
場所	鵜沼福祉センター 集会室
参加者数	19名

鵜沼駅周辺：商業施設やマンションを組み合わせた複合施設の整備に向け、駐車場確保や高さ規制の見直しが必要。モータープールを含めた将来の土地利用方針の提示が必要。

公園の維持管理：西町や羽場南公園で草が繁茂し利用しづらいため、適切な管理頻度の見直しが必要。市民公園駐車場も高齢者に配慮した利便性向上(駐車枠の明示)が必要。

歴史・観光資源：城山や古墳群、木曽川流域を一体的に整備し、犬山城を望む滞在拠点の整備が必要。犬山市と連携した回遊性向上やレンタサイクル接続強化が必要。

交通渋滞対策：坂祝バイパスの新愛岐大橋直結やツインブリッジ周辺の渋滞緩和など、将来を見据えた道路網整備が必要。にんじん通りのアンダーパスは冠水対策を含めた安全性確保が必要。



4 那加地区

日時	令和7年9月26日(金) 19時～
場所	那加福祉センター 集会室
参加者数	11名

地区の成り立ち：車社会以前に形成された狭い道路沿いに住宅が密集し、高齢者居住や空き家が多く残る地区であり、思い切った市街地更新と空き家活用による居住環境改善が必要。

産業文化C周辺：雑草繁茂やスズメバチ出現による安全面の懸念があり、除草や景観管理を強化し利用者が安心できる環境整備が必要。

境川の治水対策：現行の想定雨量では豪雨に対応できず、堤防管理も含めた治水強化が必要。特に新那加橋から那加第二小学校付近は危険性が高く、県に対して雨量基準の引き上げや早急な対策を強く求めることが必要。

I C周辺地区：各務原市西部の交通利便性や防災力向上のため、川島PAへのスマートインターチェンジ導入の検討が必要。

観光バス乗降場：新那加駅や鵜沼駅、市役所周辺で観光バスが停めにくく通行に支障を来しており、駅前や主要拠点に安全で利便性の高い乗降・待機スペースの整備が必要。



5 川島地区

日時	令和7年9月30日(水) 19時～
場所	川島ライフデザインセンター 集会室
参加者数	5名

堤防未整備区間：北山、松原付近の堤防が未整備であり、将来的な整備方針や優先順位を具体的に明確化することが必要。地域住民の安心を確保するため、未整備区間を解消する計画的な対応が必要。

下水道経年劣化：川島の下水道は整備から25年以上が経過しており、耐用年数を踏まえた点検と更新の基準を明確化することが必要。

笠田の土地利用：市街化調整区域に含まれる笠田地区では開発や農地転用が制約を受けており、地域活性化に向けた土地利用が必要。

川島大橋開通後：令和10年度ごろに開通予定の川島大橋は地域の交通体系を大きく変えるものであり、両岸に憩いの場や商業施設を配置するなど、開通を契機にした新たなまちづくりの展開が必要。

